資料2－1 【概要版】札幌市円山動物園ビジョン2050 第２次実施計画（案）　令和6年2月27日　総務委員会資料　環）円山動物園保全・教育推進課

第１章　第２次実施計画の位置付け、計画期間

第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン

札幌市環境基本条例

規定に基づき策定

第2次札幌市環境基本計画

2050年のあるべき将来像

・2030年の姿（長期的な目標）
・施策の方向

5つの柱のうち
④「都市と自然が調和した自然共生社会の実現」

環境分野に個別計画

生物多様性さっぽろビジョン
札幌市環境教育・環境学習基本方針

関連

本計画の位置づけ

寄与

札幌市動物園条例

規定に基づき策定

札幌市円山動物園基本方針ビジョン2050
ビジョン2050　第1次実施計画

1次計画の現状と課題を踏まえ
次期5年間の計画を策定

札幌市円山動物園「ビジョン2050」
第２次実施計画

本計画は、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン及び札幌市環境基本条例に基づく第2次札幌市環境基本計画の個別計画の一つであり、札幌市動物園条例に基づく円山動物園の中期的かつ具体的な計画である。
令和元年度（2019年度）から令和5年度（2023年度）までの第1次実施計画の進捗状況を踏まえ、現状の課題と今後の取り組みの方向性を整理し、2050年を見据えた運営方針であるビジョン2050の実現に向けて令和6年度（2024年度）から令和10年度（2028年度）までの5年間に重点的に取り組んでいく計画としてまとめている

ビジョン2050
取組の概念図

計画期間

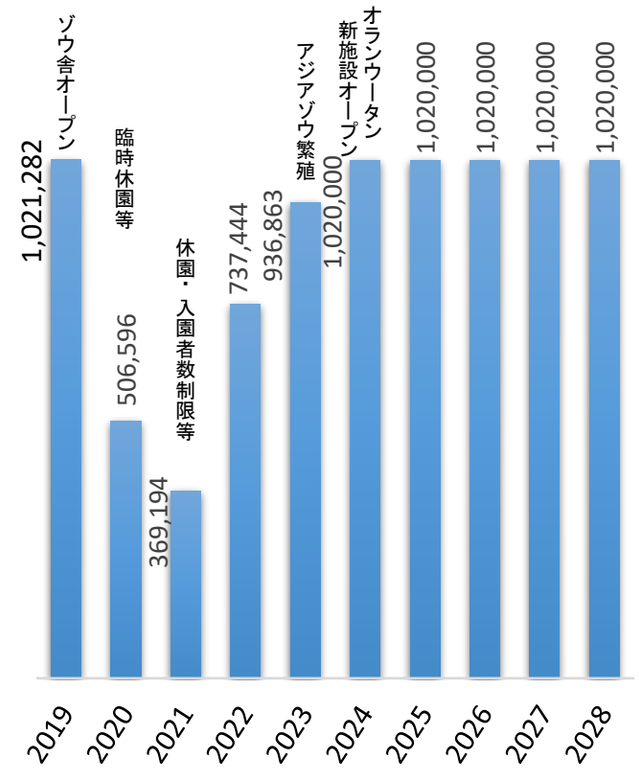
年度		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
円山動物園	基本方針	札幌市円山動物園基本方針ビジョン2050：～2050年										
	実施計画		第1次実施計画					第2次実施計画				
札幌市中期実施計画			まちづくり戦略ビジョン アクションプラン2019				まちづくり戦略ビジョン アクションプラン2023					

第２章　第１次実施計画における取組状況と今後の課題

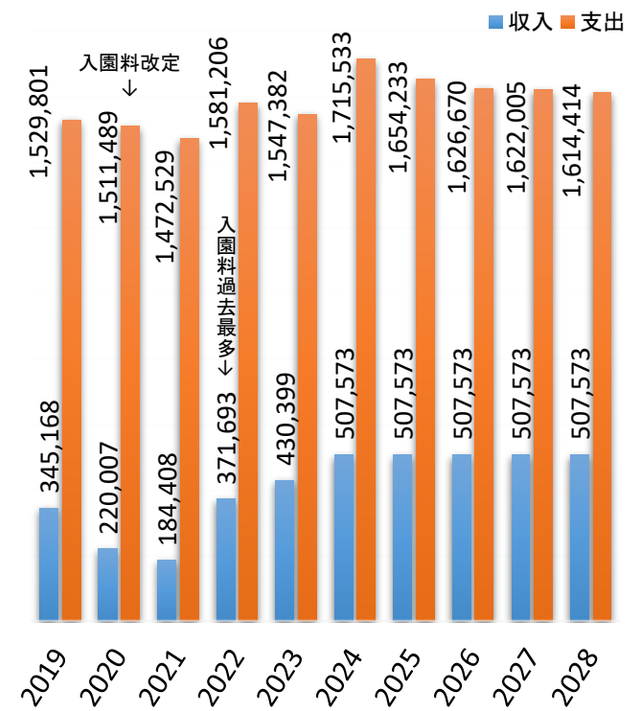
社会情勢の変化

○生物多様性の損失をとめるための新たな国際目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が令和4年12月に採択された。国内においても令和5年3月に「生物多様性国家戦略2023-2030」が閣議決定。「2030ネイチャーポジティブ」を実現を掲げている。
○新型コロナウィルス（COVID-19）や高病原性鳥インフルエンザなどの感染症によって日本も含め世界的に大きな影響を及ぼした。今後も同様の感染症発生への対策は重要となっている。
○国際情勢の不安定化により燃料や食料の価格が高騰。
○世界動物園水族館協会（WAZA）では「持続可能な開発目標（SDGｓ）」を達成するためのガイドラインとして令和3年に「世界動物園水族館持続可能性戦略」を、また、WAZAと国際動物園水族館教育者協会は「世界動物園水族館保全教育戦略」を公表。動物園は単に動物を展示するだけでなく、生物多様性の保全に様々な役割を果たすことが、より一層求められるようになっている。
○アメリカの動物園水族館協会は令和5年に「アニマルウェルビーイング文化の指針」公表。飼育動物が生涯にわたり快適で幸せな状態（ウェルビーイング）であることがより一層希求されている。

来園者数の推移（今後の推移含む）　（単位：人）



収支状況（今後の推移含む）　（単位：千円）



第1次実施計画の進捗状況

目標値以上に到達　目標7割以上到達　目標の7割未満　変化なし

重点項目	数値目標		実績			
	指標	2018→2023	2019	2020	2021	2022
保全	「飼育展示していく動物種の考え方」に基づく推進種や希少種の繁殖種数	10種（累計）	7種	8種	13種	14種
	生息域内保全活動の実施回数	11回→20回（単年度平均）	26回	56回	176回	194回
教育	園内における解説やガイド実施数	1,277回/年→1,350回/年	1,017回/年	329回/年	389回/年	1,238回/年
	総合学習等の受入れ人数	8,968人/年→10,000人/年	11,435人/年	2,883人/年	5,628人/年	7,919人/年
調査・研究	学会等で調査・研究内容を発表した回数	3回→5回（単年度平均）	14回	2回	10回	7回
	調査・研究内容の情報発信	0回/年→5回/年	3回/年	3回/年	3回/年	3回/年
リ・クリエーション	冬季来園者数（11～3月）	254,505人→300,000人	154,153人※3月休園	130,177人	158,888人	204,713人
	来園者の満足度	毎年向上※2018年度未実施	98%	97%	97%	96%
動物福祉	ハズバンダリートレーニング実施種	19種→35種（累計）	20種	22種	24種	25種
	動物福祉評価	実施完了※2018年度未実施	未実施	条例制定後の実施に向けて準備		札幌市円山動物園動物福祉規程を策定

資料2－2 【概要版】札幌市円山動物園ビジョン2050 第２次実施計画（案）　令和6年2月27日　総務委員会資料　環）円山動物園保全・教育推進課

円山動物園における今後の課題

(1)**さらなる動物福祉の向上：**全ての活動において動物福祉を優先。動物福祉評価に連動した目標へ。飼育・繁殖技術の継承、獣医療体制の確保。調査研究の社会的評価測定が必要。
(2) **生物多様性の保全への貢献：**真に保全に寄与するため、希少種の繁殖等で培った技術・知見を野生復帰技術に生かすことが課題。ｵｵﾜｼﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの推進。他機関との連携と他動物園の取組支援。
(3) **生物多様性の保全の取組を支える活動：**多くの人々に、生物多様性の重要性や動物園の社会的役割を伝え、保全に向けた行動を促す取組が必要。質的な成果指標の設定が必要。
(4) **動物園の取組を支える基盤の整備**
ア **持続可能な運営：**感染症の拡大や燃料費や食糧費の高騰による影響があり、入園料のみに頼らない持続可能な運営の検討が必要。
イ **人材育成：**良好な動物福祉の確保及び獣医療技術の向上につながる今後の動物園運営の中核を担う計画的な人材育成が必要。
ウ **施設整備：**老朽化した施設の中長期的な計画に基づく整備が必要。動物園応援基金を活用した動物福祉向上のための改修、園路・休憩スペース等を含めた動物園の施設全体の魅力を高めていくことが必要。

第３章　具体的な事業と取組

第１次実施計画からの変更点

・飼育展示していく動物種を各取組の大前提となるものとして位置づけ冒頭に掲載
・「良好な動物福祉の確保」を最重点項目へ位置付け事業・取組の初めに掲載
・限られた資源を必要な事業に効率的に配分するため、事業を統合・整理し52→24個に
・事業・取組ごとに状態目標と行動目標を掲載

飼育展示していく動物種

・「動物福祉の確保」「飼育の継続性」「保全」「教育」の４つの観点を参考とし、推進種（15種）・継続種（90種）・断念種（26種）の３つに分類

重点取組項目に対応する事業と取組

（1）「良好な動物福祉の確保」を推進する事業・取組　【関連する課題】2章4（1）、（4）イ、（4）ウ

動物福祉向上強化事業【統合】
動物福祉向上を図るため動物福祉評価を実施し、獣舎の機能強化を目的とした改修を進めるとともに、栄養管理、環境エンリッチメント、動物病院の機能強化などの各取組みを推進する。

アジアゾウ飼育技術向上・繁殖推進事業【継続】
ゾウの健康管理及び飼育職員の安全確保のため、海外のゾウ専門家による職員への技術研修を実施。

（2）「保全」を推進する事業・取組　【関連する課題】2章4（2）、（4）イ

北海道の野生動物保全事業 【統合】
オオワシやニホンザリガニなど道内に生息する希少動物を中心として、生息域内・域外保全に取り組む

さっぽろの動物園ステップアップ制度【新規】
動物園条例で示す動物園の役割や取組内容への理解を深めるとともに、札幌市認定動物園の認定や準認定施設の登録により動物園の活動を促進する。

（3）「教育」を推進する事業・取組　【関連する課題】2章4（3）

ホッキョクグマ保全推進事業 【継続】
ホッキョクグマの新たな個体導入や保全のための調査・研究に取り組むほか、気候変動対策などの啓発事業を行う。

こども動物園の機能強化【継続】
動物とのふれあいなどを通じて、子どもの情操教育及び環境教育の入り口としての機能を担うことができるよう、こども動物園について機能強化を図る。

（4）「調査・研究」を推進する事業・取組　【関連する課題】2章4（1）、（2）、（3）、（4）イ

北海道の種の保全を目的とした調査・研究　【新規】
北海道内に生息する野生動物の生息調査や飼育下での繁殖技術確立、研究など、関係機関と連携して種の保全を目的とした取組を進める。

（5）「リ・クリエーション」を推進する事業・取組　【関連する課題】2章4（3）

円山動物園おもてなし事業 【統合】
園内サインやリーフレットの充実、Wi-Fi環境の整備等により、来園者の観覧環境充実を図る

（6）取組を支える基盤の整備　【関連する課題】2章4（4）

円山動物園の経営基盤の安定化に関する取組 【新規】
厳しい財政運営の中で、経営基盤の安定化や基金の活用など持続可能な動物園運営のあり方について検討する。

人材育成 【新規】
動物や自然環境に関する専門的知識を習得するための職場環境の構築や、職員全体で園運営に係る基礎的知識等を習得できる研修を実施する。

新券売システムの導入 【新規】
来園者のスムーズな入園や来園者に応じたサービスの向上を図るため、オンライン購入に対応した券売システムを導入。

第４章　施設整備

＜これまでの取組状況について＞
類人猿館の大規模改修を完了。そのほかの老朽化等による動物施設の不具合は、毎年新たに100件以上発生。施設については中長期計画に基づく保全が必要。

＜今後の施設整備について＞
・長期にわたって安全に施設を管理し、安心して利活用できるよう施設保全計画を策定
・北海道ゾーン構想の基本方針を策定するために調査研究を実施
・動物園全体の施設整備計画策定に向け検討
・動物園応援基金を用いて、動物福祉向上のための施設改修を実施

第５章　第２次実施計画の推進にあたって（計画全体の成果指標）

項目	R10年度（2028年度）数値目標	モニタリング方法
動物福祉	動物福祉評価の指摘事項：全項目の5％以下	動物福祉評価結果の集計
保全	放鳥・モニタリングするオオワシの累計数：5羽	放鳥実施数及びGPSによる追跡
保全	認定動物園等への研修会実施件数：年2回	研修会の実施
教育	園内イベントへの参加を通じて生き物と人との関わりの大切さを理解した人の割合：100％	園内イベント参加者へのアンケート
調査研究	HP掲載の報告書等の閲覧回数：毎年増加	HPアクセス数統計データの参照
ﾘ･ｸﾘｴｰｼｮﾝ	円山動物園を他の人にも勧めたいと答えた人の割合：75％（参考：2022年度63％）	来園者アンケート
ﾘ･ｸﾘｴｰｼｮﾝ	円山動物園にまた来たいと答えた人の割合：79％（参考：2022年度74％）	来園者アンケート
基盤整備	持続可能な運営手法の導入検討	新しい運営手法の導入の公表
施設整備	園内施設の修繕必要件数：73か所（参考：2022年度169か所）	修繕必要箇所の確認
施設整備	施設保全計画の策定	策定
施設整備	北海道ゾーン基本方針策定に向けた調査研究の実施	調査研究の実施